

都道府県インフルエンザワクチン担当者会議

日時 平成22年9月14日(火)10:10~10:30

場所 中央合同庁舎5号館 講堂(低層棟2階)

インフルエンザを含む 感染症の動向について

国立感染症研究所 感染症情報センター

2009/10シーズン前の抗体保有状況

2009年度感染症流行予測調査事業 インフルエンザ感受性調査協力都道府県

- ・北海道
- ・山形県
- ・福島県
- ・茨城県
- ・栃木県
- ・群馬県
- ・千葉県
- ・東京都
- ・神奈川県
- ・新潟県
- ・富山県
- ・福井県
- ・山梨県
- ・長野県
- ・静岡県
- ・愛知県
- ・三重県
- ・京都府
- ・山口県
- ・愛媛県
- ・高知県
- ・佐賀県
- ・宮崎県

上記、23都道府県ならびに都道府県衛生研究所

流行前の抗体保有率2009年

(感染症流行予測調査事業より)

図1 季節性インフルエンザ(A型)に対する年齢群別HI抗体保有状況
[2009/10シーズン前]

(2010年2月5日現在)

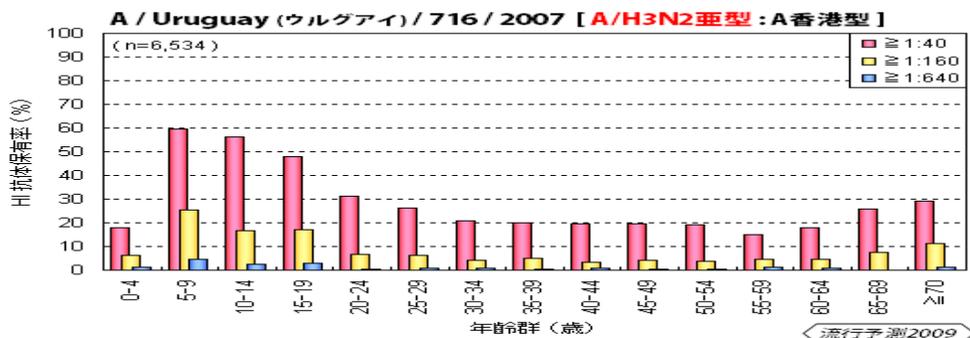
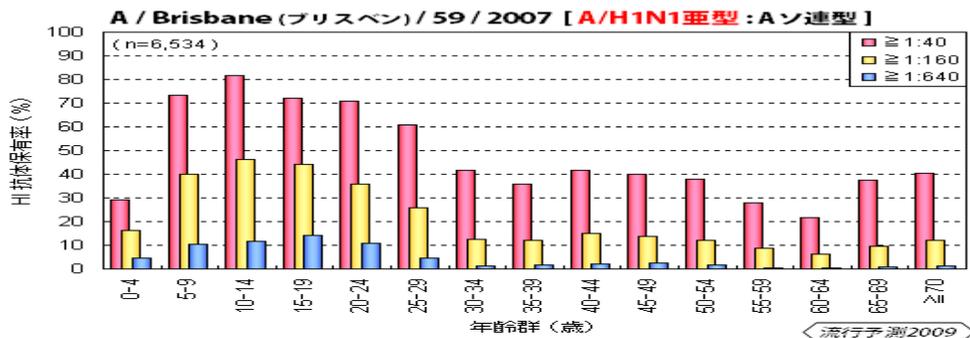
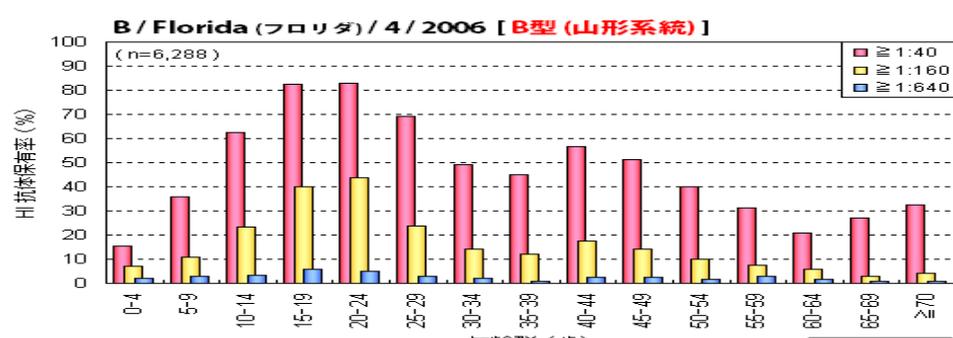
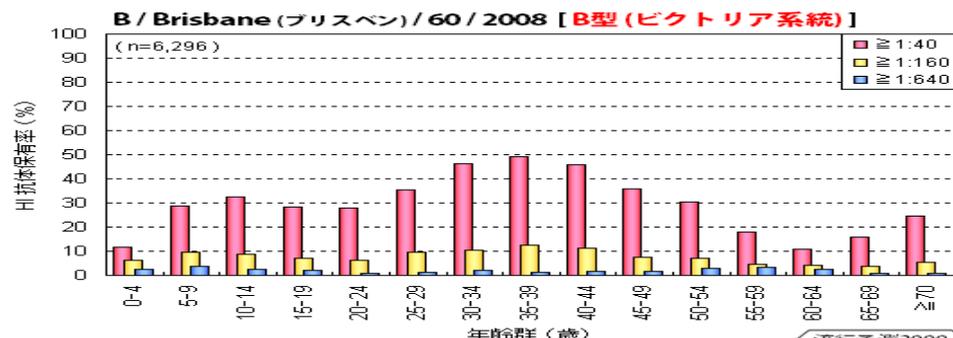


図2 季節性インフルエンザ(B型)に対する年齢群別HI抗体保有状況
[2009/10シーズン前]

(2010年2月5日現在)



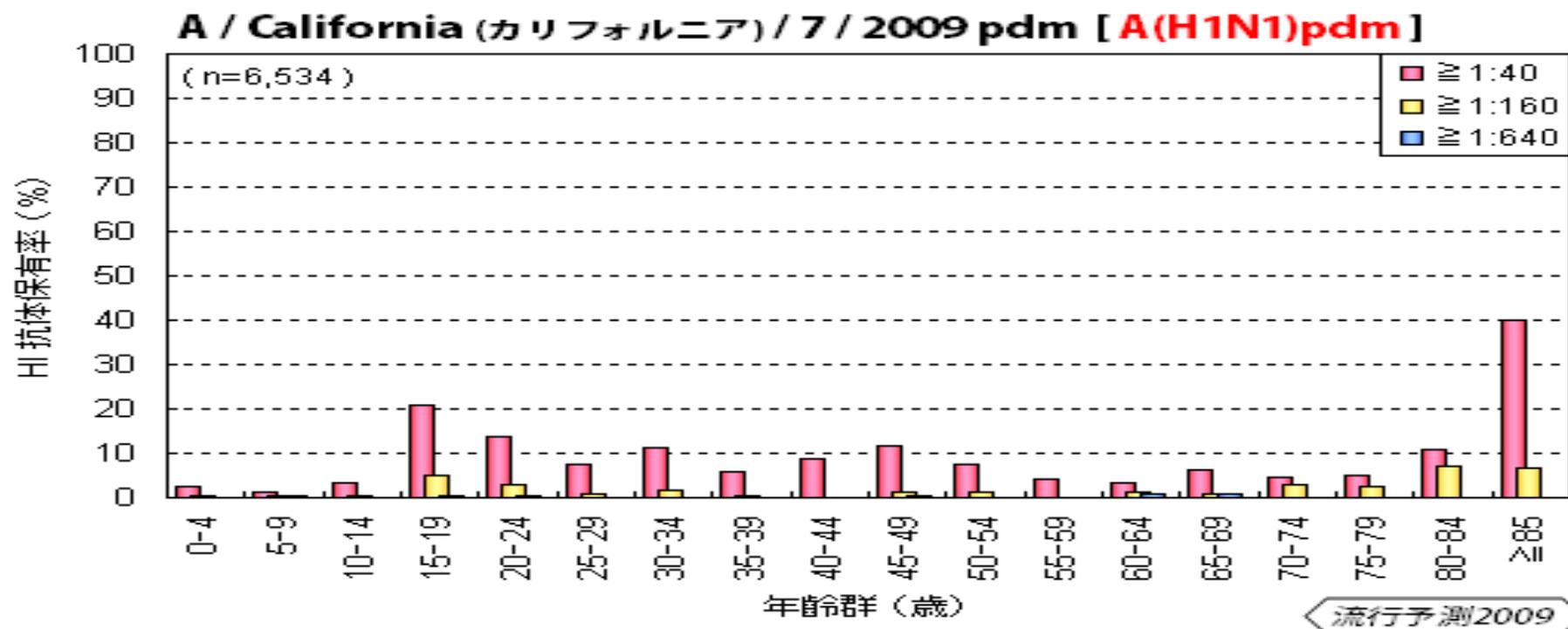
2010年版は11月末頃HPに公開予定です。

是非ご覧下さい。 <http://idsc.nih.go.jp/yosoku/index.html>

流行早期の抗体保有率2009年

(感染症流行予測調査事業より)

図3 パンデミック(H1N1)2009に対する年齢群別HI抗体保有状況
[2009年度] (2010年2月5日現在)



※ ≥ 85歳群は85-89歳群: 9名および ≥ 90歳群: 6名のデータ

図1 A/California/7/2009pdmlに対する抗体保有状況-2009年度感染症流行予測調査事業より-

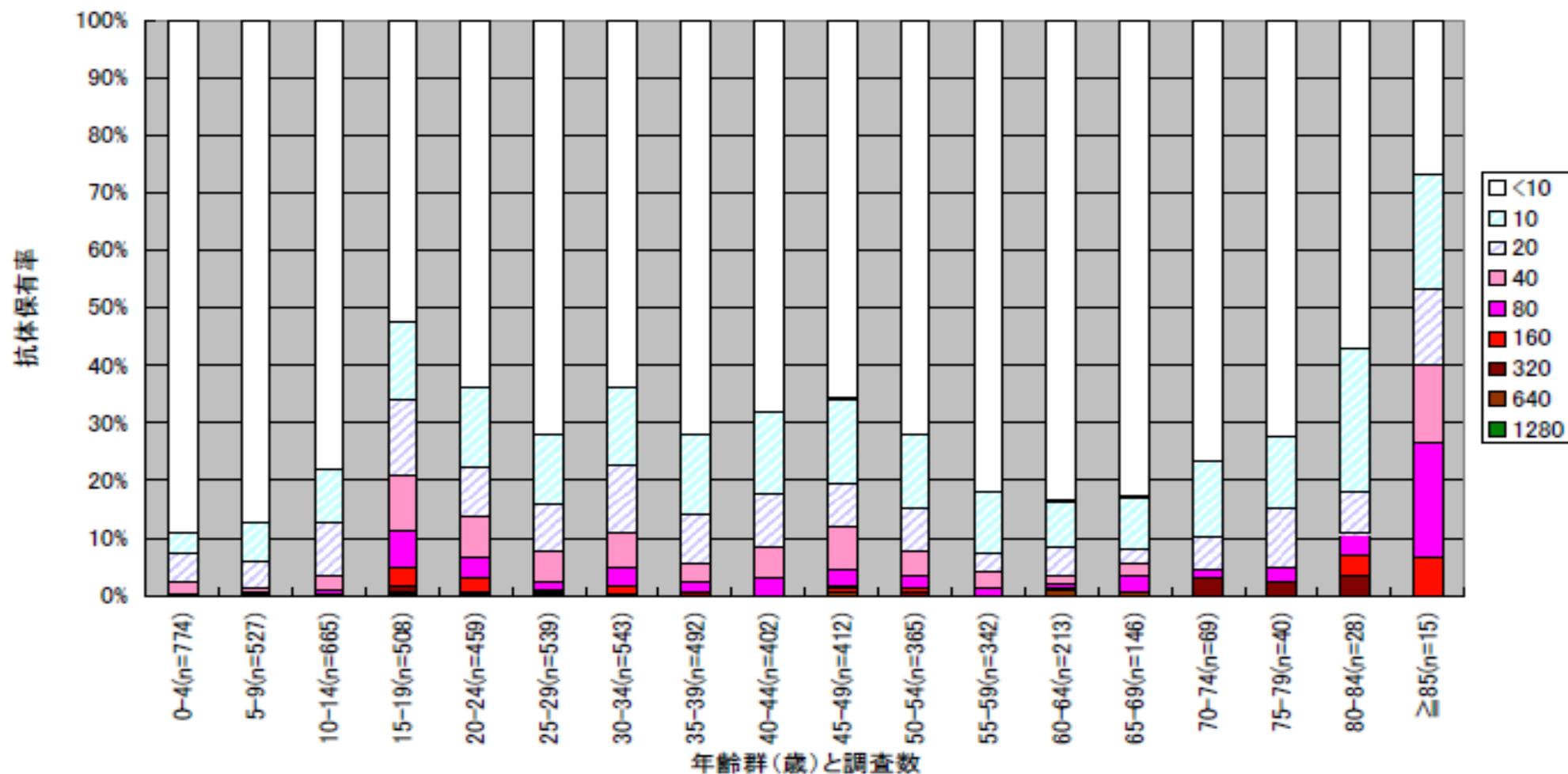
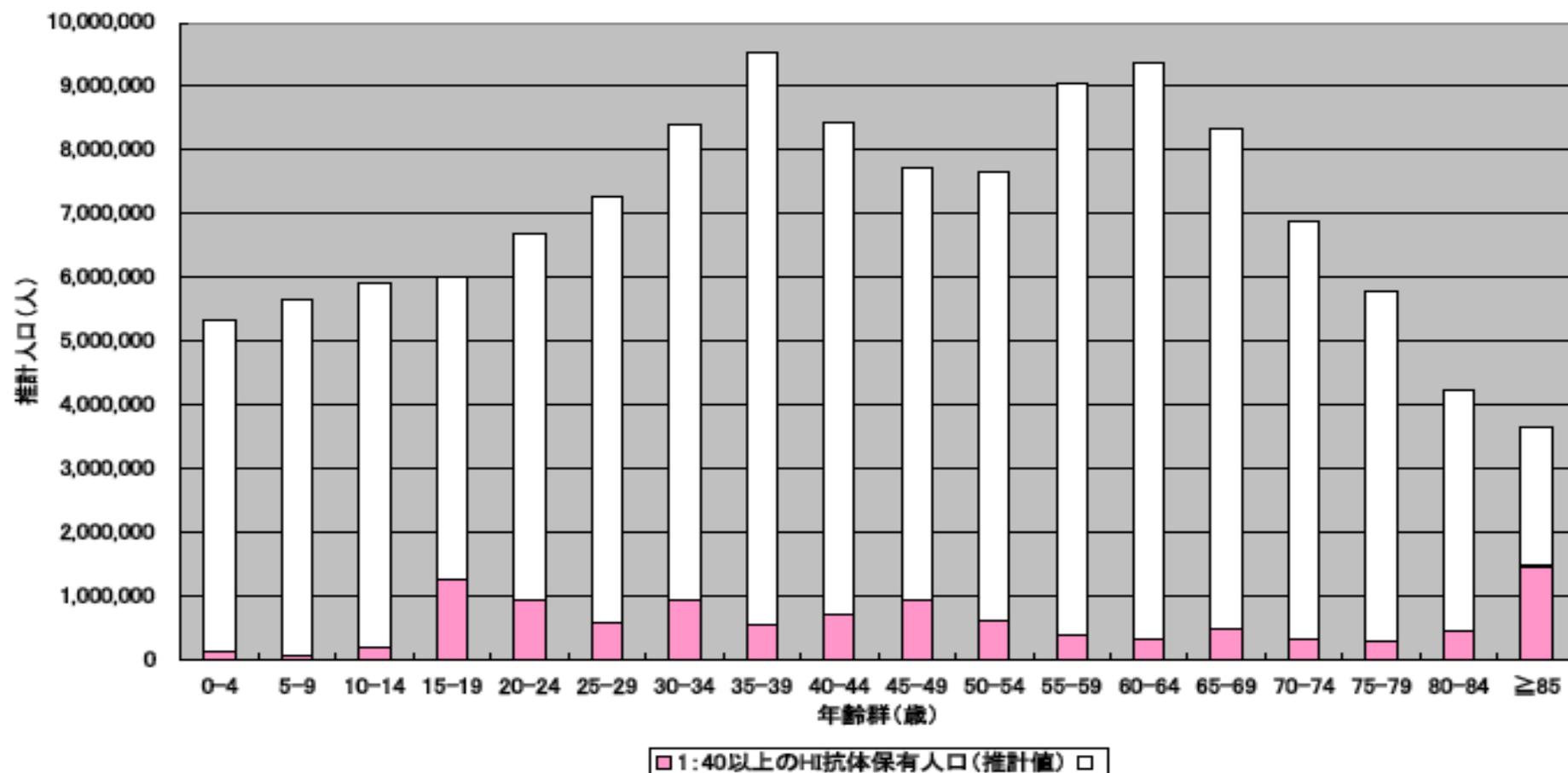


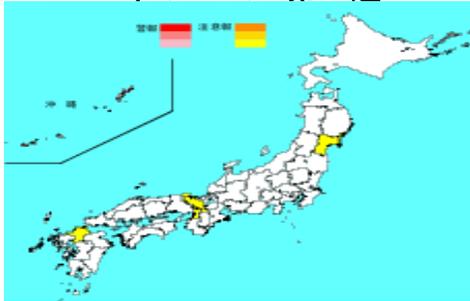
図2 パンデミック(H1N1)2009流行初期に国内で1:40以上のHI抗体を保有していたと推計される人口
(2009年10月1日現在の年齢群別推計人口に占める割合)



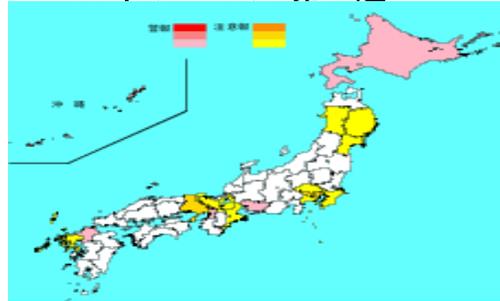
2009/10シーズンの流行の特徴

2009/10シーズン週別都道府県別インフルエンザ患者報告数

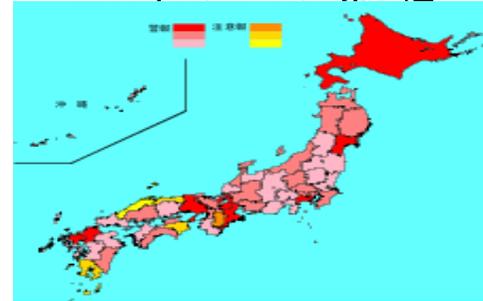
2009年8/31-9/6:第36週



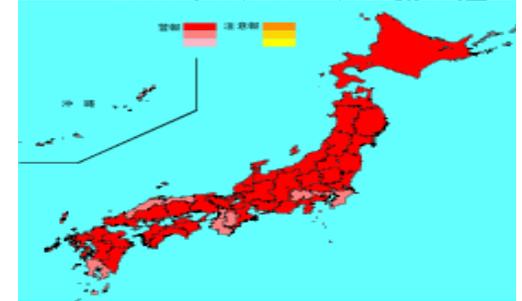
2009年9/28-10/4:第40週



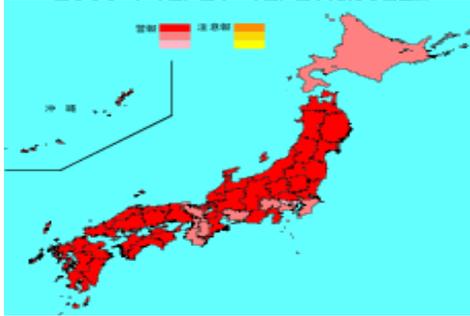
2009年10/26-11/1:第44週



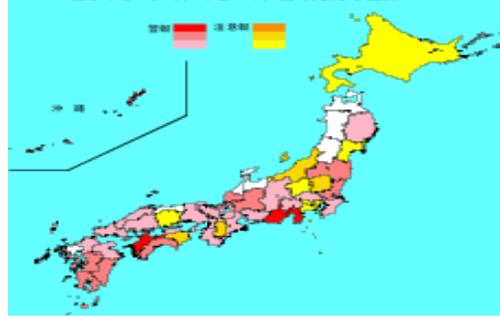
2009年11/23-11/29:第48週



2009年12/21-12/27:第52週



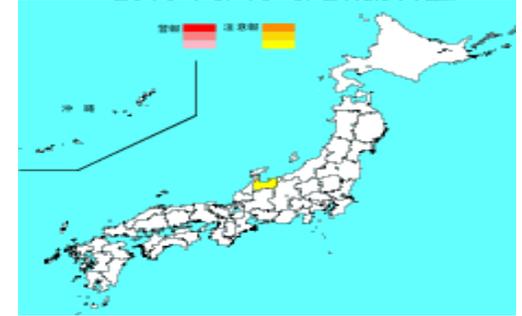
2010年1/18-1/24:第3週



2010年5/14-5/20:第7週



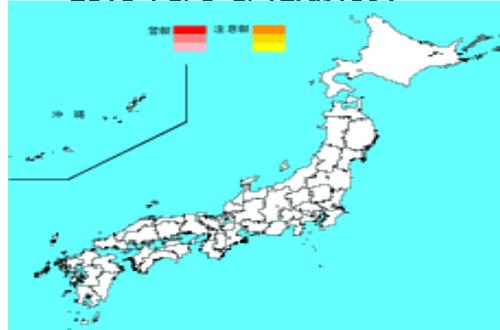
2010年3/15-3/21:第11週



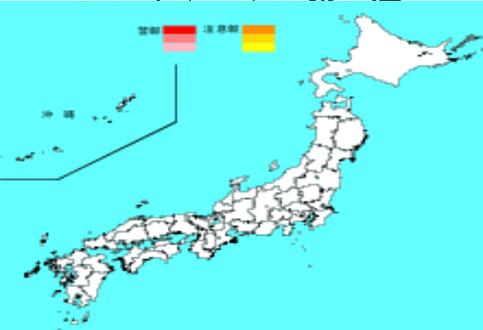
2010年4/12-4/18:第15週



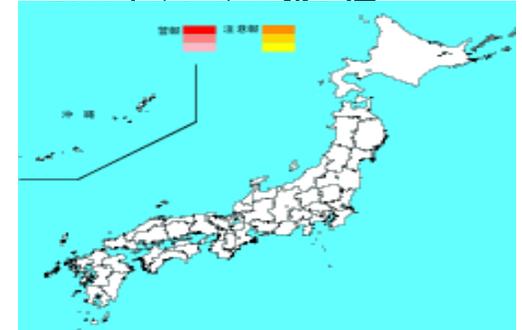
2010年8/6-8/12:第19週



2010年6/7-6/13:第23週



2010年7/5-7/11:第27週



2009/10シーズンの流行の特徴

シーズン初めはAH3N2亜型、B型も検出されていたが、その後は、
パンデミック(H1N1) 2009の流行:WHOはジュネーブ時間2009年6
月11日に世界的大流行を示すフェーズ6を宣言

国内の流行開始 (定点あたり報告数1.0以上):2009年**第33週**(8
/10-8/16)

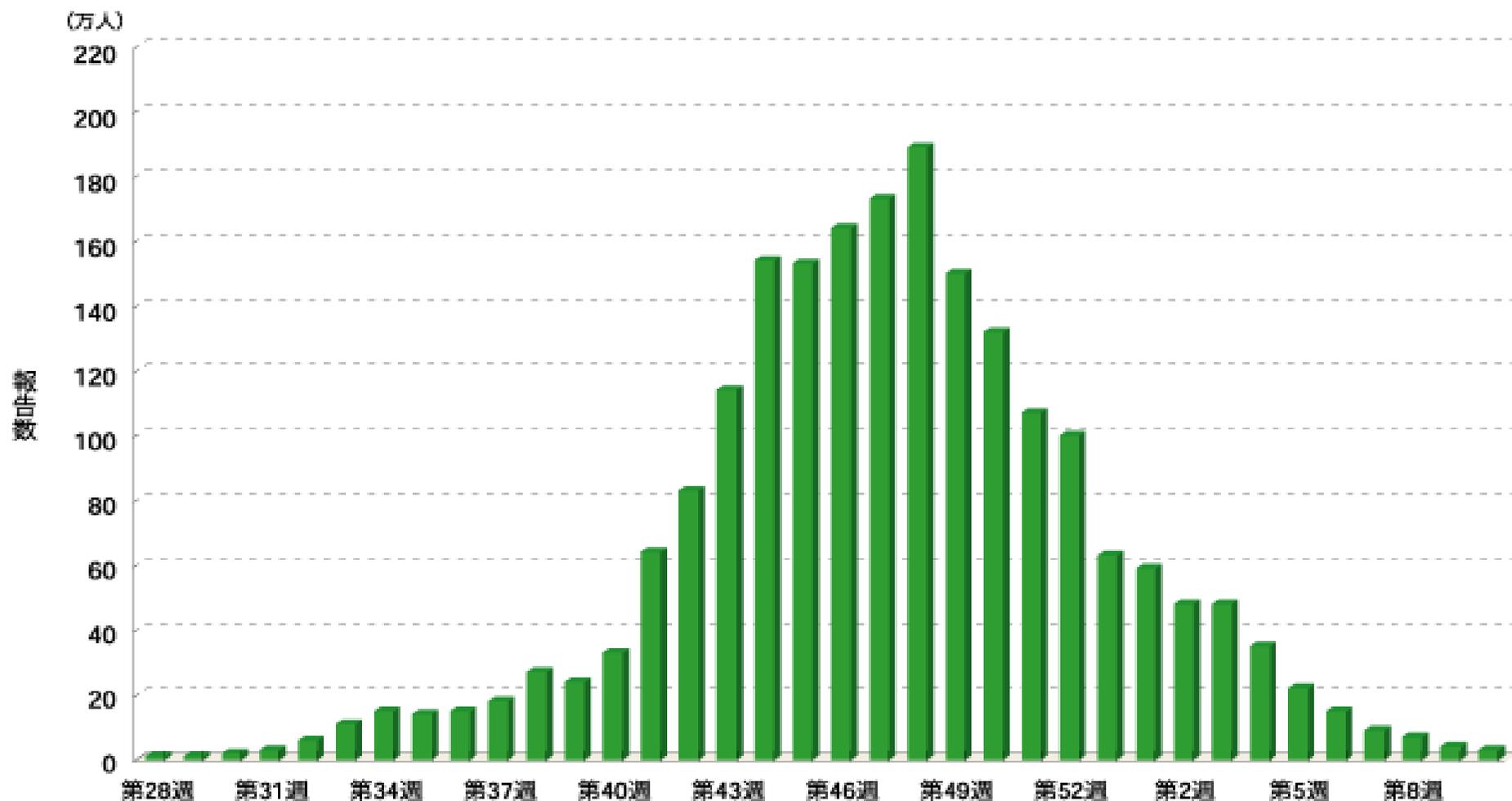
国内の流行のピーク:2009年**第48週**(11/23-11/29)

定点あたり報告数39.63(累積報告数190,801人)

その後、報告数減少。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機
関を受診した患者数を推計すると、**2009年第28週以降2010年第
10週までの累積の推計受診患者数は約2,066万人(95%信頼区間:
2,046万人~2,086万人)(暫定値)**となった。(感染症週報2010年
第10週号より)

図3. インフルエンザ推計受診患者数(暫定値)週別推移(2009年第28週～2010年第10週)

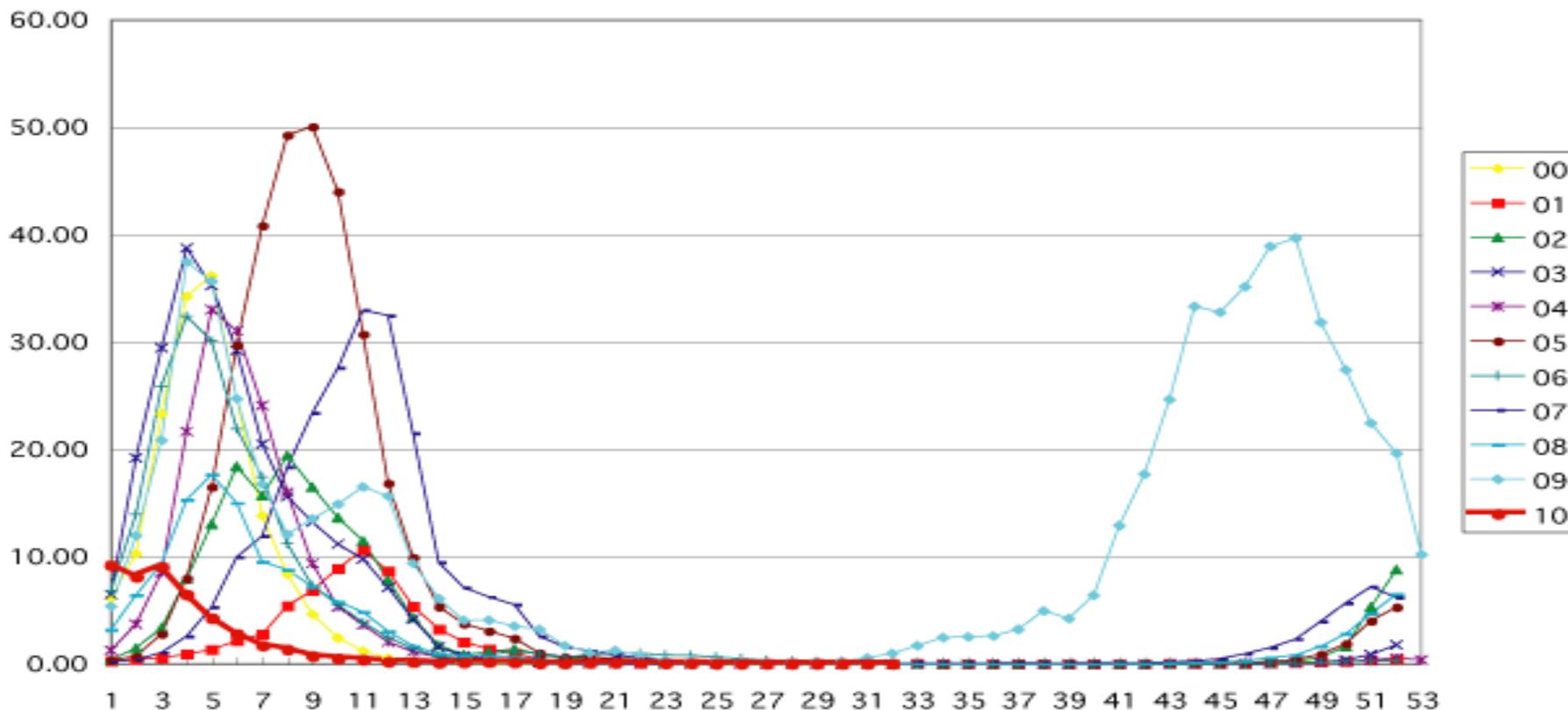


インフルエンザ様疾患による休校、学年閉鎖、学級閉鎖数 (厚生労働省結核感染症課調査)

	休校数	学年閉鎖数	学級閉鎖数
2009/10シーズン (10/25-8/21)	7,012	29,281	85,169
2008/09シーズン (10/26-10/24)	6,010	15,115	44,485
2007/08シーズン (10/28-7/19)	377	2,015	4,428

週別、年別定点あたりインフルエンザ患者報告数 (現在のインフルエンザ定点数: 内科約2,000、小児科約3,000)

定点
あたり
報告数
(人)



(感染症発生動向調査より) (週)

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/weeklygraph/01flu.html>

図4. インフルエンザ推計受診患者数(暫定値)の
年齢群別割合(2009年第28週～2010年第10週)

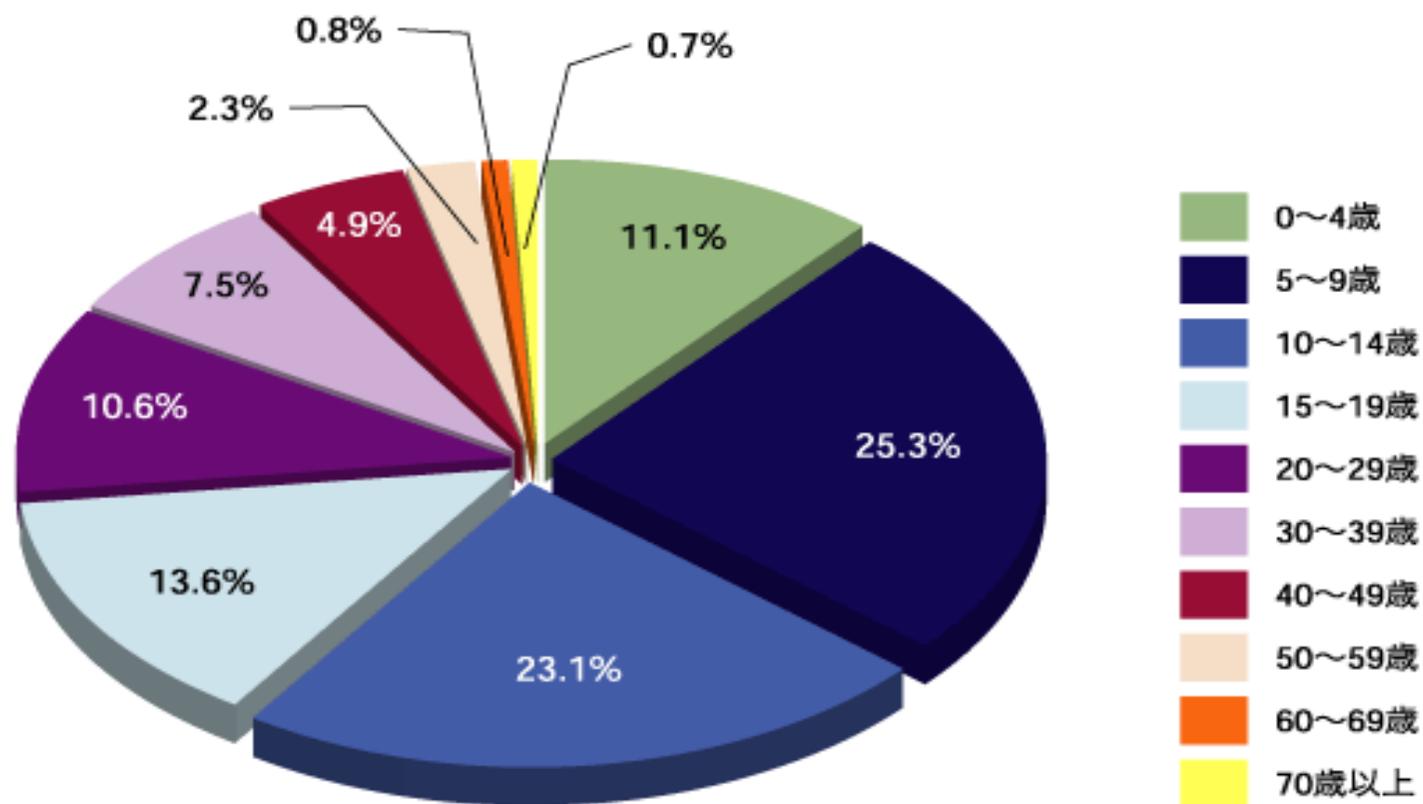
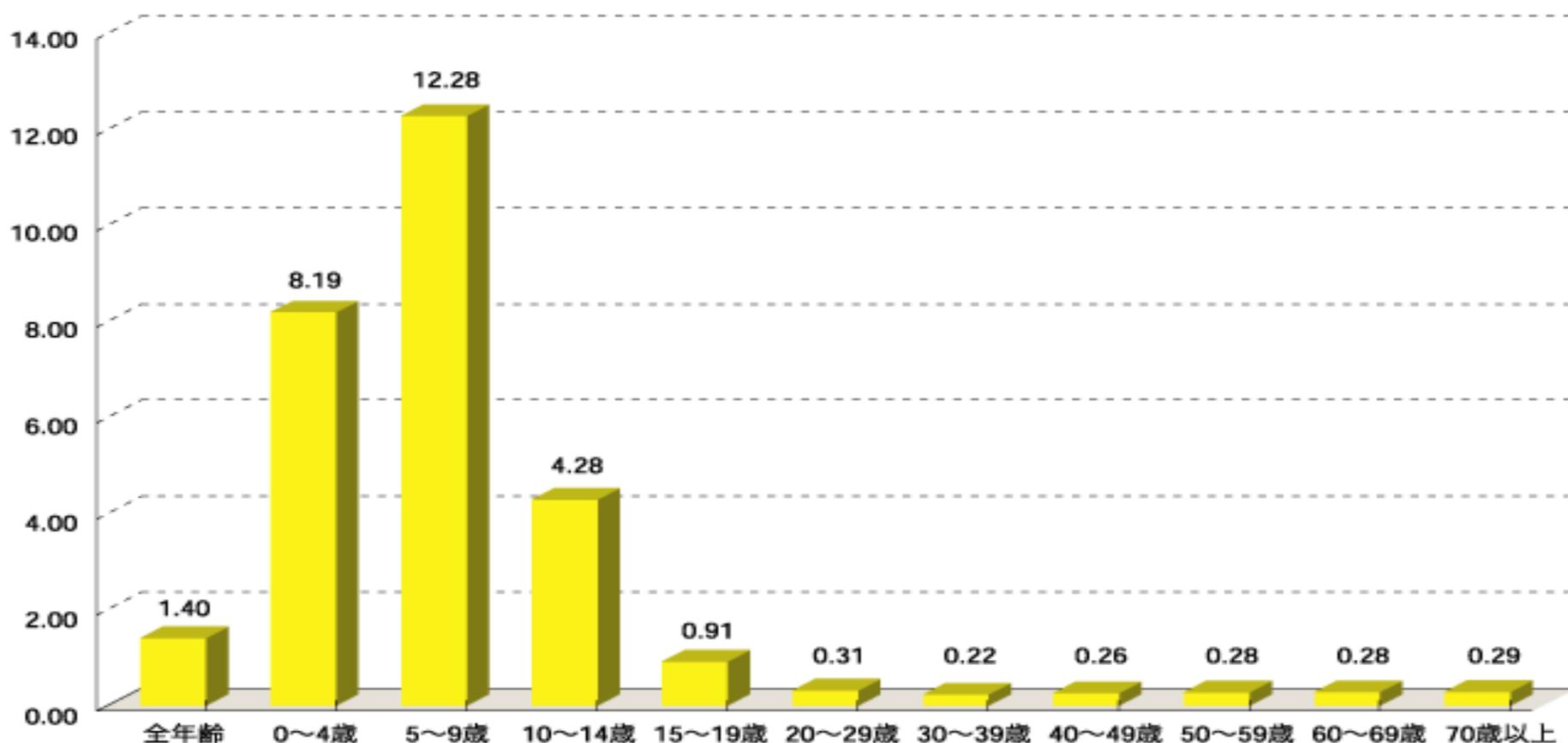


図5. インフルエンザの年齢群別入院率 1 (人口*1万人当たり)
(2009年7月28日～2010年3月16日)



* 2008年10月1日現在推計人口

図6. インフルエンザの年齢群別入院率 2 (推計受診患者(暫定値)1,000人当たり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)

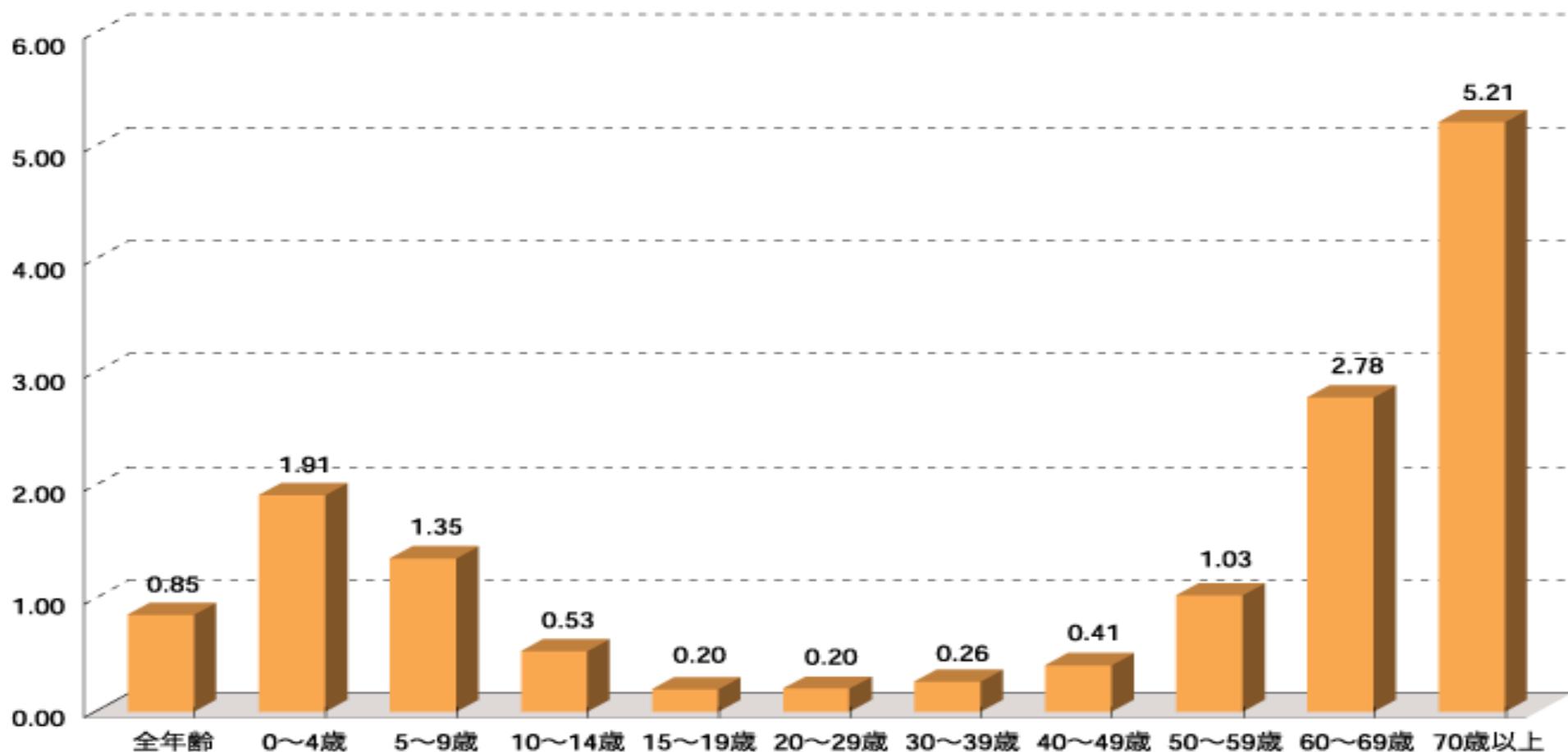
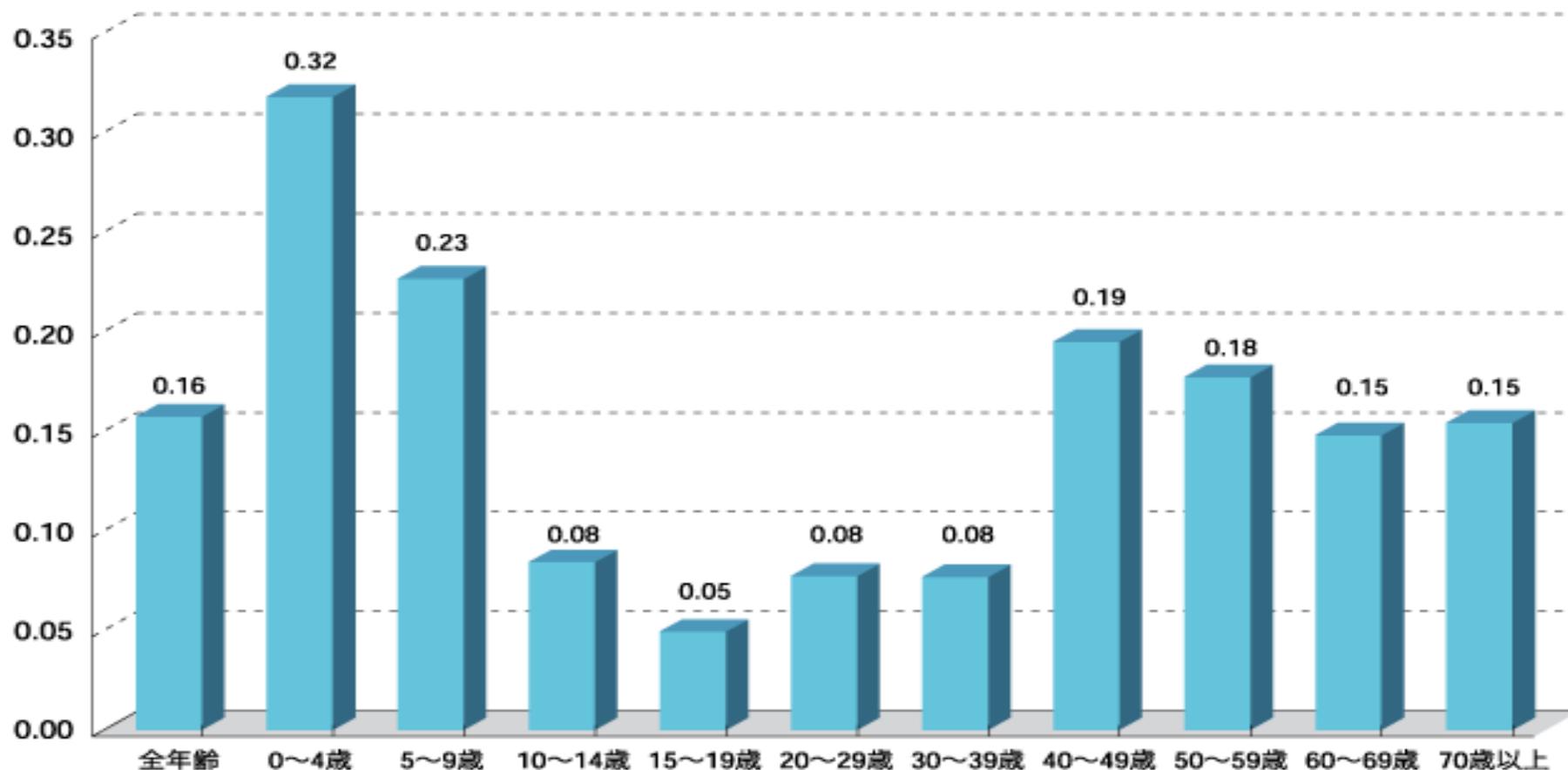
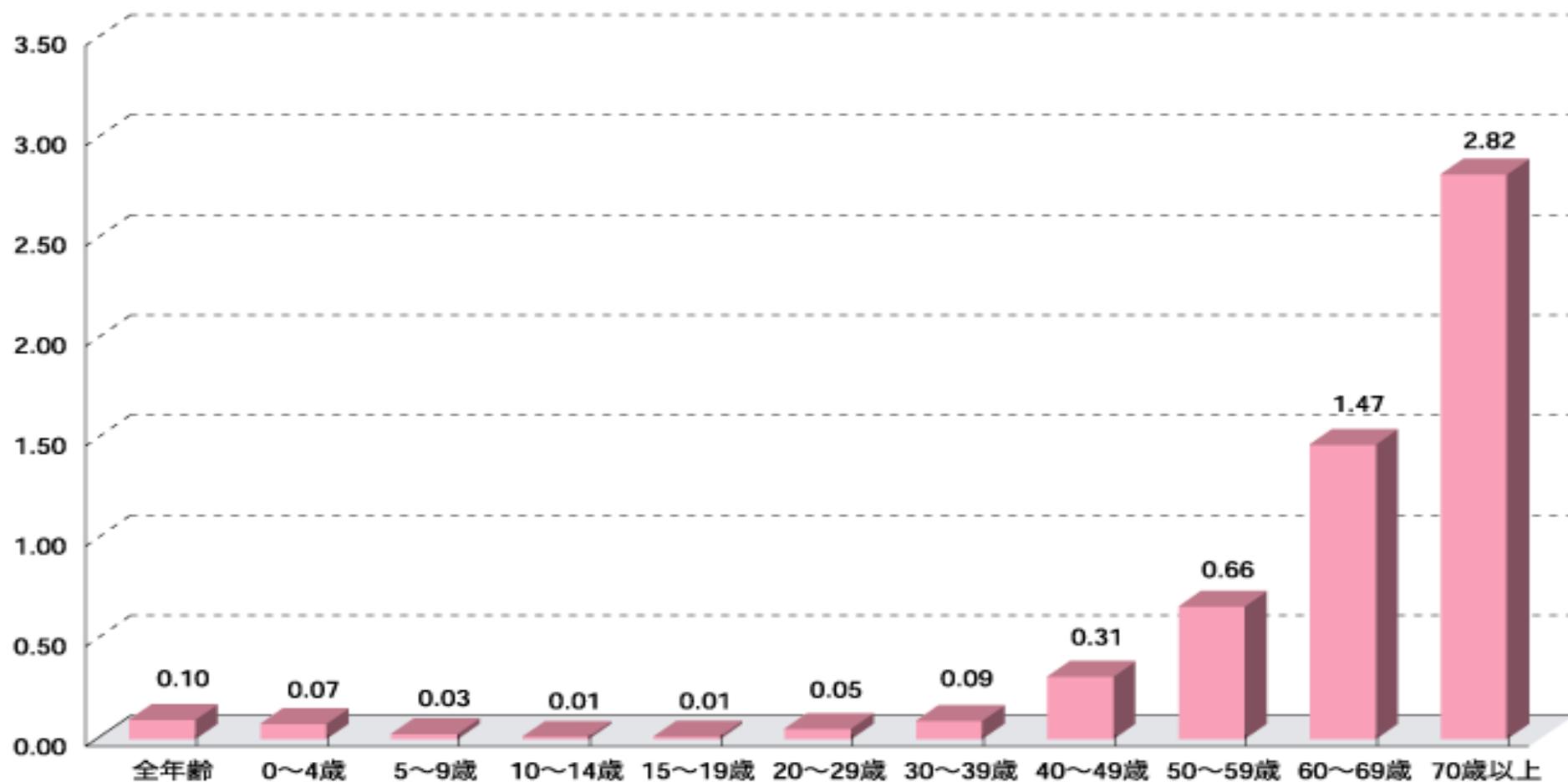


図7. インフルエンザの年齢群別死亡率(人口*10万人当たり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)



* 2008年10月1日現在推計人口

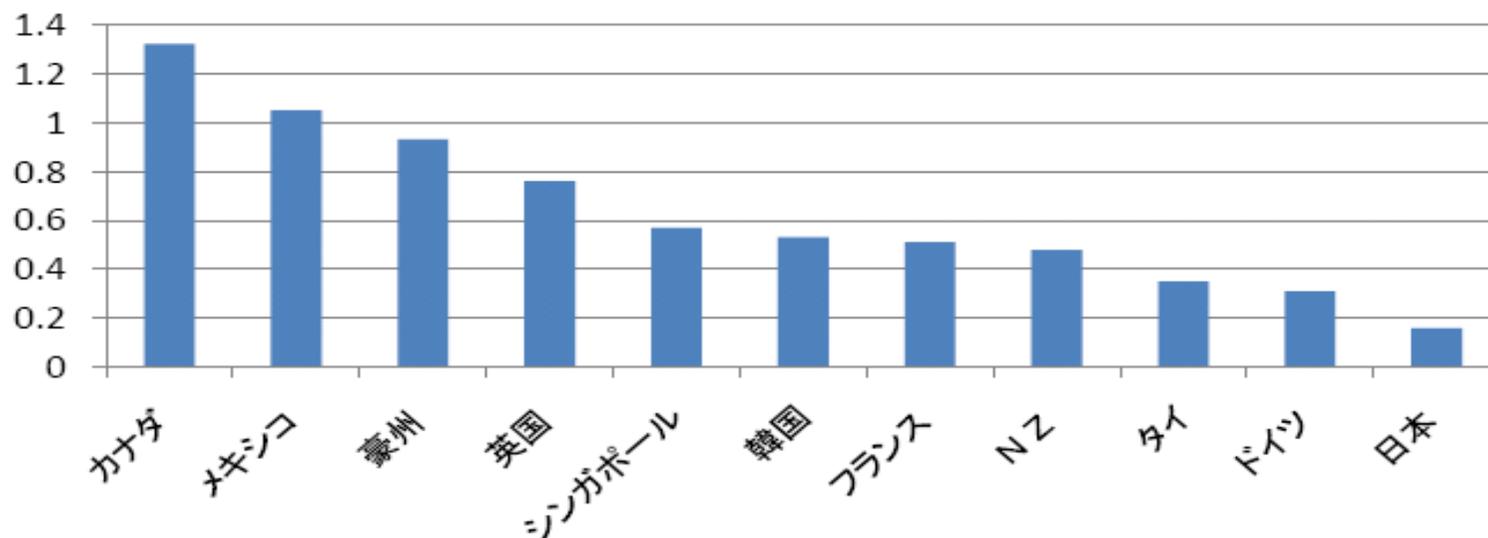
図8. インフルエンザの年齢群別致死率（推計受診患者（暫定値）1万人当たり）
（2009年7月28日～2010年3月16日）



新型インフルエンザの死亡率の各国比較

	米国	カナダ	メキシコ	豪州	英国	シンガポール	韓国	フランス	NZ	タイ	ドイツ	日本
集計日	2/13	4/10	3/12	3/12	3/14	4月末	5/14	—	3/21	—	5/18	5/26
死亡数	推計 12,000	428	1,111	191	457	25	257	312	20	225	255	199
人口10万対死亡率	(3.96)	1.32	1.05	0.93	0.76	0.57	0.53	0.51	0.48	0.35	0.31	0.16
PCR	—	全例	—	—	—	全例	全例	260名はPCRで確定	—	全例	—	184名はPCRで確定

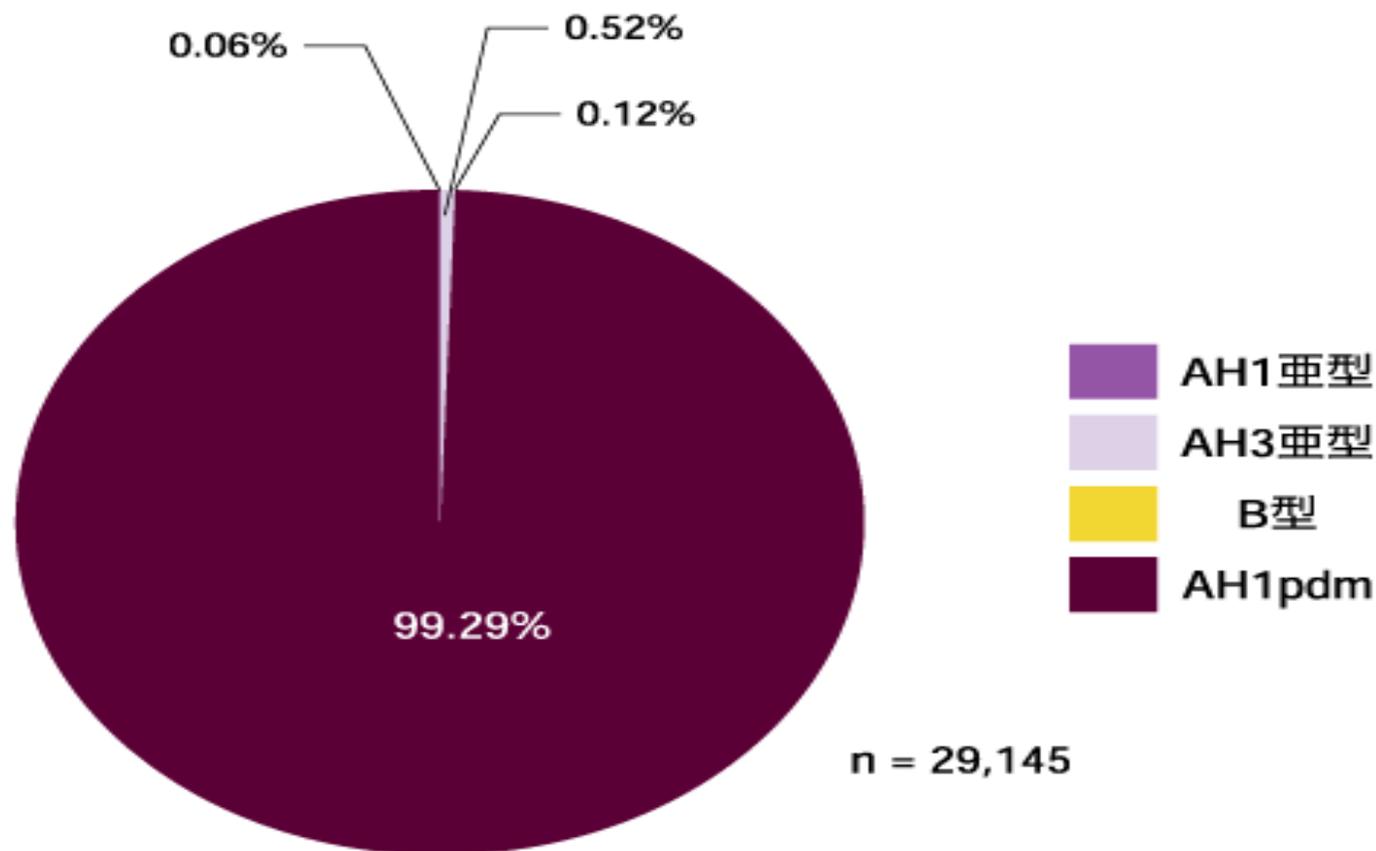
※尚、各国の死亡数に関してはそれぞれ定義が異なり、一義的に比較対象とならないことに留意が必要。



出典：各国政府・WHOホームページから厚生労働省で作成

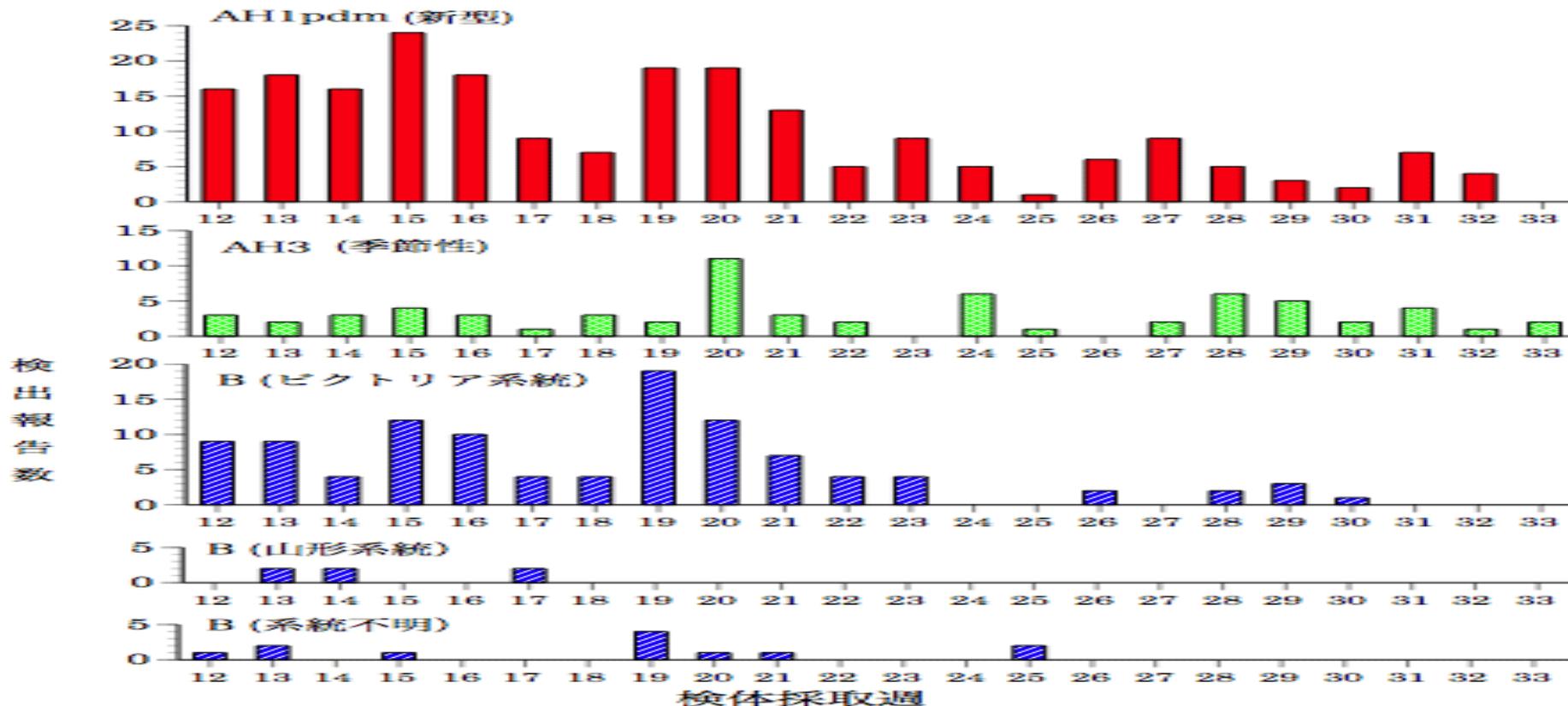
ウイルス分離状況

図9. インフルエンザウイルス検出報告割合 (2009年第28週～2010年第10週)
(病原微生物検出情報: 2010年3月18日現在報告数)



週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数2010年第12～33週

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2010年第12～33週
(病原微生物検出情報：2010年8月19日現在報告数)

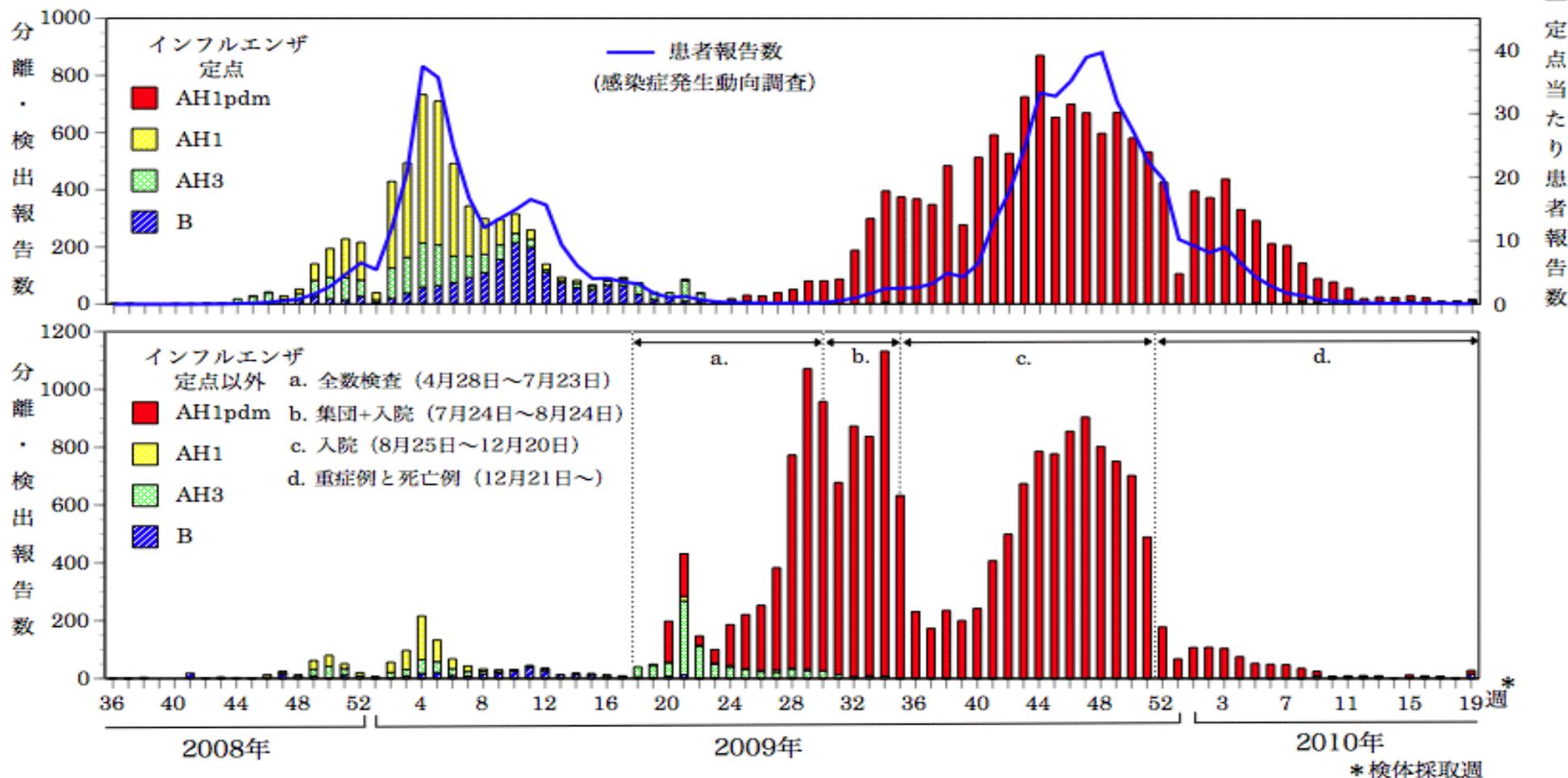


各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

図1. 週別インフルエンザ患者報告数とインフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移,
2008年第36週～2010年第19週 (病原微生物検出情報：2010年8月24日現在報告数)



ウイルス分離・検出報告数は各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

週別Influenza virus A H1pdm分離・検出報告数、2009 & 2010年

(病原微生物検出情報：2010年8月30日 作成)

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

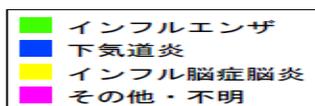
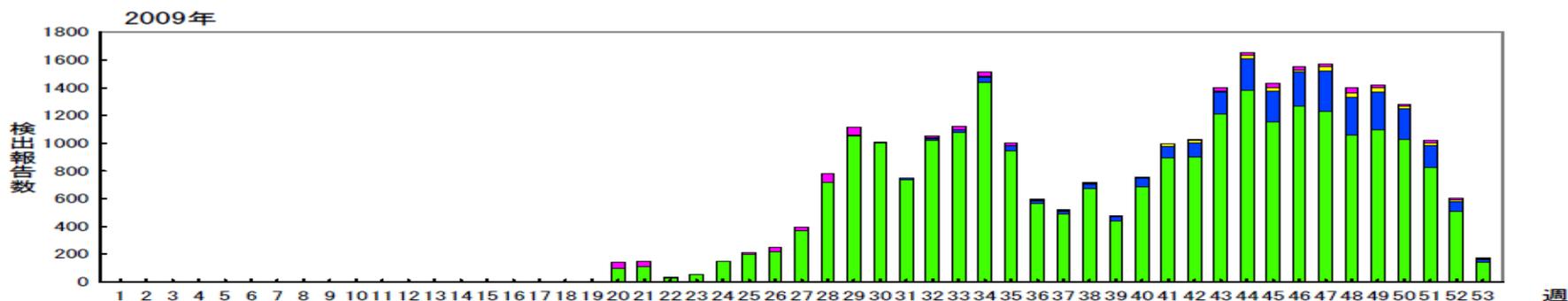
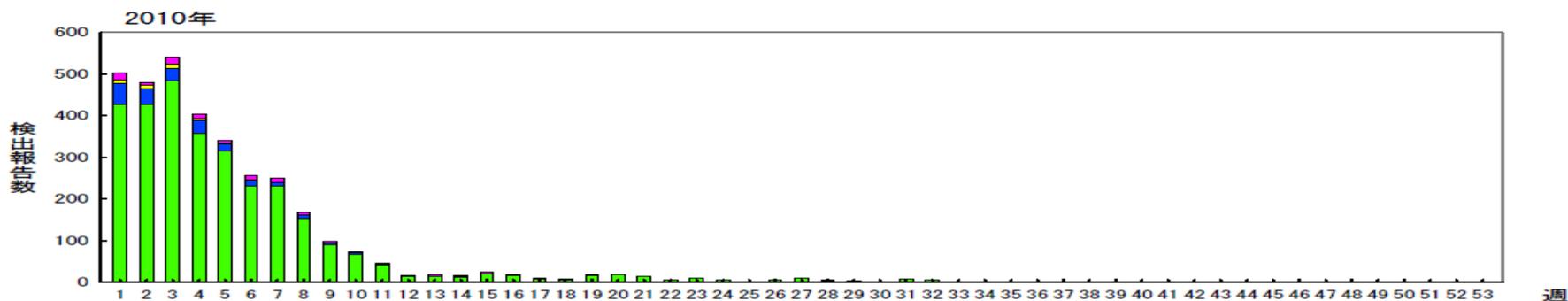


表1. 地方衛生研究所別オセルタミビル耐性株 (A/H1N1pdm) 検出情報

最終更新日: 2010/8/2

都道府県名	報告機関名	シーズン総解析数	シーズン耐性株数	
北海道・東北	北海道立衛生研究所	263	1	
	札幌市衛生試験所	510	3	
	青森県環境保健センター	170	0	
	岩手県環境保健研究センター	183	1	
	宮城県保健環境センター	63	1	
	仙台市衛生研究所	68	0	
	秋田県健康環境センター	1	0	
	山形県衛生研究所	235	2	
	福島県衛生研究所	50	1	
	新潟県保健環境科学研究所	56	5	
	新潟市衛生環境研究所	73	1	
	関東・甲・信・静岡	茨城県衛生研究所	148	0
		栃木県保健環境センター	104	4
		宇都宮市衛生環境試験所	2	0
群馬県衛生環境研究所		61	0	
埼玉県衛生研究所		74	3	
さいたま市健康科学研究センター		53	1	
千葉県衛生研究所		171	1	
千葉県環境保健研究所		209	0	
東京都健康安全研究センター		546	1	
神奈川県衛生研究所		144	0	
横浜衛生研究所		569	4	
川崎市衛生研究所		127	0	
横浜国立大学健康安全科学センター		5	0	
相模原市衛生試験所		70	0	
山梨県衛生環境研究所		83	1	
長野県環境保全研究所		40	0	
長野市保健所		11	0	
静岡県		静岡県環境衛生科学研究所	73	1
		静岡市環境保健研究所	387	5
		浜松市保健環境研究所	2	0
東海・北陸	石川県保健環境センター	27	0	
	福井県衛生環境研究センター	136	1	
	岐阜県保健環境研究所	2	0	
	岐阜市衛生試験所	2	0	
	愛知県衛生研究所	222	5	
	三重県保健環境研究所	180	2	
	滋賀県衛生科学センター	11	3	
近畿	京都府保健環境研究所	18	0	
	京都府衛生環境研究所	2	0	
	大阪府立公衆衛生研究所	116	4	
	大阪市立環境科学研究所	73	1	
	堺市衛生研究所	74	0	
	兵庫県立健康生活科学研究所健康科学研究センター	15	1	
	神戸市環境保健研究所	51	1	
	姫路市環境衛生研究所	2	0	
	尼崎市立衛生研究所	2	0	
	奈良県保健環境研究センター	1	0	
	和歌山県環境衛生研究センター	137	2	
中国・四国	鳥取県衛生環境研究所	22	2	
	鳥取県保健環境研究所	30	1	
	島根県保健環境科学研究所	117	2	
	岡山県環境保健センター	77	2	
	広島県立総合技術研究所保健環境センター	157	1	
	広島市衛生研究所	134	0	
	山口県環境保健センター	24	2	
	徳島県保健環境センター	9	1	
	愛媛県立衛生環境研究所	61	0	
	高知県衛生研究所	7	0	
九州	福岡県保健環境研究所	93	1	
	福岡市保健環境研究所	160	0	
	北九州市環境科学研究所	21	1	
	熊本県保健環境科学研究所	14	1	
	熊本市環境総合研究所	4	0	
	大分県衛生環境研究センター	70	1	
	宮崎県衛生環境研究所	66	1	
	鹿児島県環境保健センター	11	0	
沖縄県衛生環境研究所	42	0		
全国	総解析数	6744		
	耐性株数	71		
	耐性株数(検出率%)	1.06%		

各地研において解析されたA/H1N1pdm分離株は、無作為に抽出されたものが大半であった。しかし、一部には、インフルエンザ入院サーベイランス(重症化、死亡例)からの検体や薬剤治療が奏功していない事例を優先的に調べた成績も含まれていることを考慮する必要がある。

耐性株数71
解析数6744
耐性株検出率1.06%

2010/11シーズンのインフルエンザワクチン

2010/11北半球インフルエンザシーズンに推奨されるワクチン株

A/California/7/2009 (H1N1) 類似株
A/Perth/16/2009 (H3N2) 類似株
B/Brisbane/60/2008 類似株

今（2010/11）シーズンの 国内インフルエンザワクチン株

- **A/California/7/2009 (H1N1)**
 - **A/Victoria/210/2009(H3N2)**
 - **B/Brisbane/60/2008**
- （ビクトリア系統）**

インフルエンザワクチンの効果

- インフルエンザによる重篤な合併症や死亡を予防
- 年齢によって違う
- 本人の体調
- そのシーズンのインフルエンザの流行株とワクチンに含まれている株の合致状況
- 良好な条件では、70～90%発症阻止効果（65歳以下健常成人でのデータ）
- ワクチンの接種を受けないでインフルエンザにかかった65歳以上の健常な高齢者について、約45%の発病を阻止し、約80%の死亡を阻止する効果があった。

インフルエンザワクチンの副反応

- 10～20%で接種局所の発赤、腫脹、疼痛、硬結、熱感、しびれ感など（通常2～3日で消失）
- 全身性の反応としては、5～10%で発熱、頭痛、悪寒、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛など（通常は軽微で、2～3日で消失）
- ワクチンに対するアレルギー反応として、まれに発疹、じんましん、湿疹、紅斑、掻痒などが数日間見られることあり
- 現在日本で用いられているインフルエンザワクチンは不活化ワクチンであり、その接種によってインフルエンザを発症することはない。